

令和3年度
全国学力・学習状況調査結果及び対策
[令和3年5月調査]



令和3年12月
鹿児島市教育委員会

目 次

| | | |
|-----|-------------------------------------|----|
| I | 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方 | 1 |
| II | 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について | 2 |
| III | 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策 | 4 |
| IV | 学力調査分析（国語、算数・数学） | |
| 1 | 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について | 5 |
| 2 | 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について | 7 |
| 3 | 正答数分布グラフ | 9 |
| V | 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉 | 10 |

I 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における鹿児島市に關係するものです。ついては、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

1 本報告書の構成について

概要は、次のような構成になっています。

- I 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方
- II 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
- III 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策
- IV 学力調査分析（国語、算数・数学）
 - 1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について
 - 2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について
 - 3 正答数分布グラフ
- V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査（抜粋）

2 本報告書の活用について

(1) 調査の目的や内容、各教科の平均通過率、質問紙調査の結果等について知りたいとき

「II 令和3年度『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」(2ページ)を御覧ください。調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問紙調査結果において特徴的なもの等について説明してあります。

(2) 本市の各教科の平均正答率別の割合や今後の改善策等について知りたいとき

「III 令和3年度『全国学力・学習状況調査』結果正答率分布グラフ、課題、改善策」(4ページ)を御覧ください。平均正答率を5段階に分け、児童生徒の分布状況をグラフにしています。改善策等は本市の学力向上施策や各教科及び全体で重点的に取り扱うべき項目を示しています。

(3) 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき

「IV 学力調査分析」(国語5ページ、算数・数学7ページ)を御覧ください。小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明しています。改善のポイントについても、小中共同や小学校、中学校別に説明してあります。また、各教科ごとの正答数分布グラフも御覧ください。分布の状況などを見ることにより、詳しく集団の状況を把握することができます。

(4) 児童生徒の学習状況を知りたいとき

「V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉」(10～18ページ)を御覧ください。児童生徒に対する質問紙については10ページ以降、学校に対する質問紙については13ページ以降を御覧ください。「基本的な生活習慣等に関すること」、「学習習慣等に関すること」等のカテゴリーにまとめています。本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小・中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくしました。また、本市の「よく行った」、「どちらかといえば行った」等の肯定的な回答をした割合と、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合の二つの数値を示し、全国との比較をしています。各学校の結果と比較できるように、表に貴校の結果も記入できる欄を設けています。既に詳細な分析は各学校で進められているところですが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を確認してください。さらに、各カテゴリーごとに設けた□の枠内には、貴校の「分析・対策」を記入することにより、今後の取組を明確にしてください。

(5) 授業改善について知りたいとき

「令和2年度鹿児島学習定着度調査結果～R3年度 鹿児島市みんなで実践～」と「令和2年度改訂版かごんまよか授業」(鹿児島市教育委員会)を活用してください。

II 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

令和3年度の本市の結果は、以下のとおりです。
本調査結果は、学力・学習状況の特定の一部であることを踏まえて御覧ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

| 学校種 | 実施学年 | 実施学校数 | | | 実施児童生徒数 | | | |
|-----|------|-------|------|---------|---------|--------|---------|----------|
| | | 本市 | 県(位) | 全国(位) | 教科 | 市 | 県(位) | 全国(位) |
| 小学校 | 6年生 | 78校 | 483校 | 19,028校 | 国語 | 5,287人 | 13,892人 | 993,975人 |
| | | | | | 算数 | 5,294人 | 13,899人 | 994,101人 |
| 中学校 | 3年生 | 38校 | 213校 | 9,684校 | 国語 | 4,878人 | 12,879人 | 903,157人 |
| | | | | | 数学 | 4,891人 | 12,897人 | 903,253人 |

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）

〔国語・算数・数学〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記の①と②を一体的に問う。

イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校）

〔生活習慣や学習環境等に関する調査〕

(4) 調査日

令和3年5月27日（木）

2 教科に関する調査結果（平均正答率％）

| 学校種 | 小学校 | | 中学校 | |
|-----|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|
| | 国語 | 算数 | 国語 | 数学 |
| 本市 | 68 (9.5/14問) | 72 (11.5/16問) | 66 (9.2/14問) | 58 (9.3/16問) |
| 県 | 67 (9.4/14問) | 71 (11.4/16問) | 64 (9.0/14問) | 56 (9.0/16問) |
| 全国 | 64.7 (9.1/14問) | 70.2 (11.2/16問) | 64.6 (9.0/14問) | 57.2 (9.1/16問) |

(平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率)

全ての教科において、全国を上回った。

3 質問紙調査結果（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%）

(1) 児童生徒に対する質問 【質問数 小学校69問 中学校69問】（質問文は一部省略）

| | | | |
|---|----|------|------|
| 将来の夢や目標を持っていますか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 | | 小学校 | 中学校 |
| | 本市 | 83.4 | 71.5 |
| | 県 | 83.7 | 71.0 |
| | 全国 | 80.3 | 68.6 |

| | | | |
|---|----|------|------|
| 自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか ※ 「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童生徒の割合 | | 小学校 | 中学校 |
| | 本市 | 57.7 | 53.1 |
| | 県 | 59.5 | 54.0 |
| | 全国 | 63.5 | 62.0 |

| | | | | |
|--|---|----|------|------|
| 国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 | 国 | 本市 | 54.1 | 60.6 |
| | | 県 | 53.0 | 59.2 |
| | | 全国 | 58.4 | 60.8 |
| | 語 | 本市 | 71.2 | 59.1 |
| | | 県 | 70.9 | 58.8 |
| | | 全国 | 67.8 | 59.1 |
| | 英 | 本市 | 69.1 | 53.6 |
| | | 県 | 68.7 | 54.1 |
| | | 全国 | 68.3 | 56.7 |

本市において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。
 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国に比べ低い。
 「小学校算数を好き」「小学校英語を好き」と回答した割合は、全国に比べ高いが、「小学校国語を好き」「中学校英語を好き」と回答した割合は、全国に比べ低い。

(2) 学校に対する質問 【質問数 小学校102問 中学校102問】（質問文は一部省略）

| | | | |
|---|----|------|------|
| 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか ※ 「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した学校の割合 | | 小学校 | 中学校 |
| | 本市 | 98.7 | 92.1 |
| | 県 | 94.8 | 92.5 |
| | 全国 | 86.6 | 87.8 |

| | | | |
|--|----|------|------|
| 各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか ※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合 | | 小学校 | 中学校 |
| | 本市 | 82.0 | 84.3 |
| | 県 | 88.0 | 84.0 |
| | 全国 | 81.4 | 72.6 |

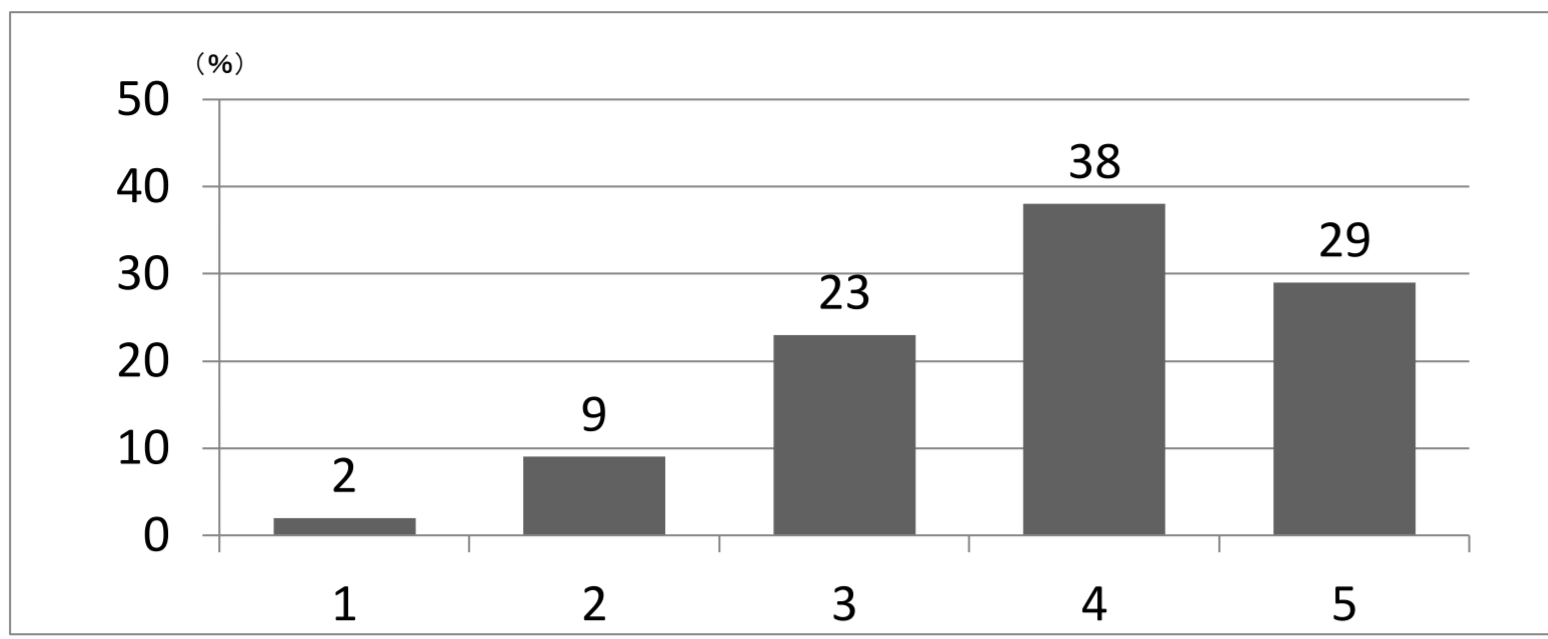
| | | | |
|--|----|------|------|
| 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか ※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合 | | 小学校 | 中学校 |
| | 本市 | 93.6 | 94.7 |
| | 県 | 97.3 | 97.2 |
| | 全国 | 95.6 | 94.3 |

「教員がICTを活用した授業を行った」、「各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。
 「言語活動について、各教科、道徳及び特別活動等を通じて、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は低く、中学校はやや高い。

Ⅲ 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策

【小学校】〔国語〕

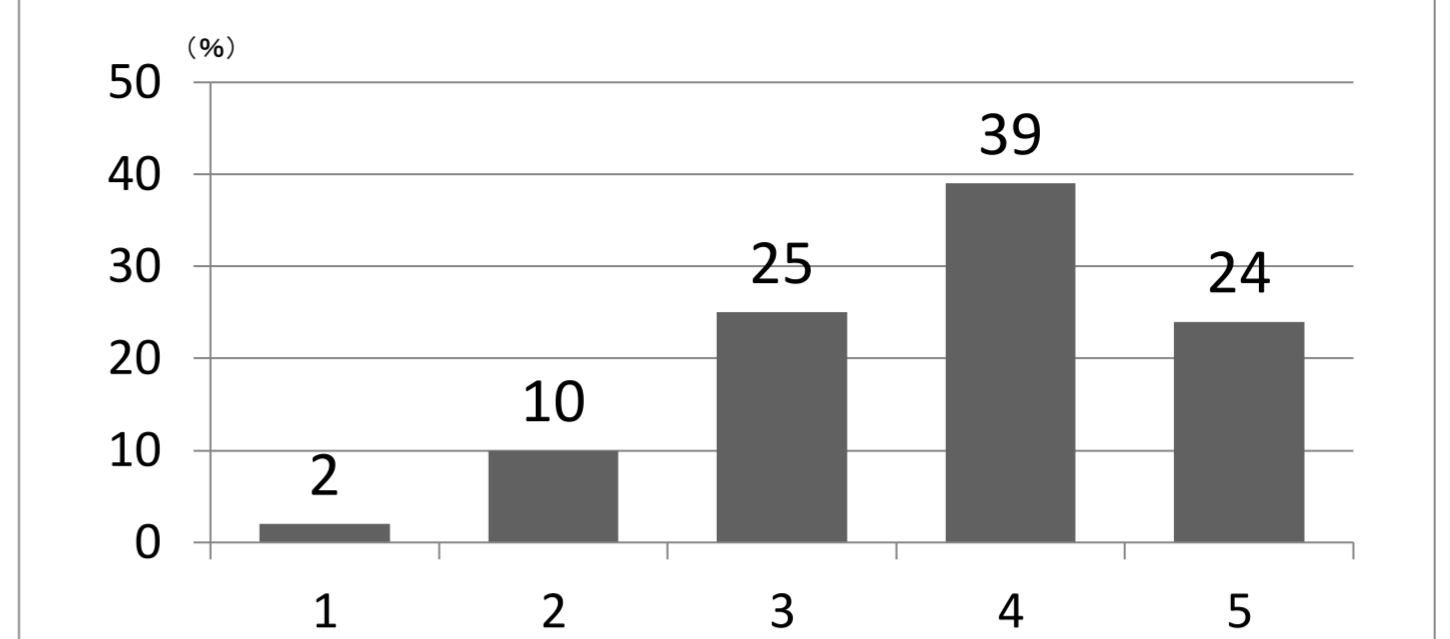
標準偏差 2.9



〈課題〉
 ・5段階の分布状況については、4、5の段階は、67%で全国と比べて、5. 6ポイント高かった。1、2の段階は、11%で全国と比べて3. 5ポイント低かった。中央値は、10(14問)で、全国より1問高かった。
 ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉えること、説明的文章の内容を把握すること、要約することに課題がみられた。

【中学校】〔国語〕

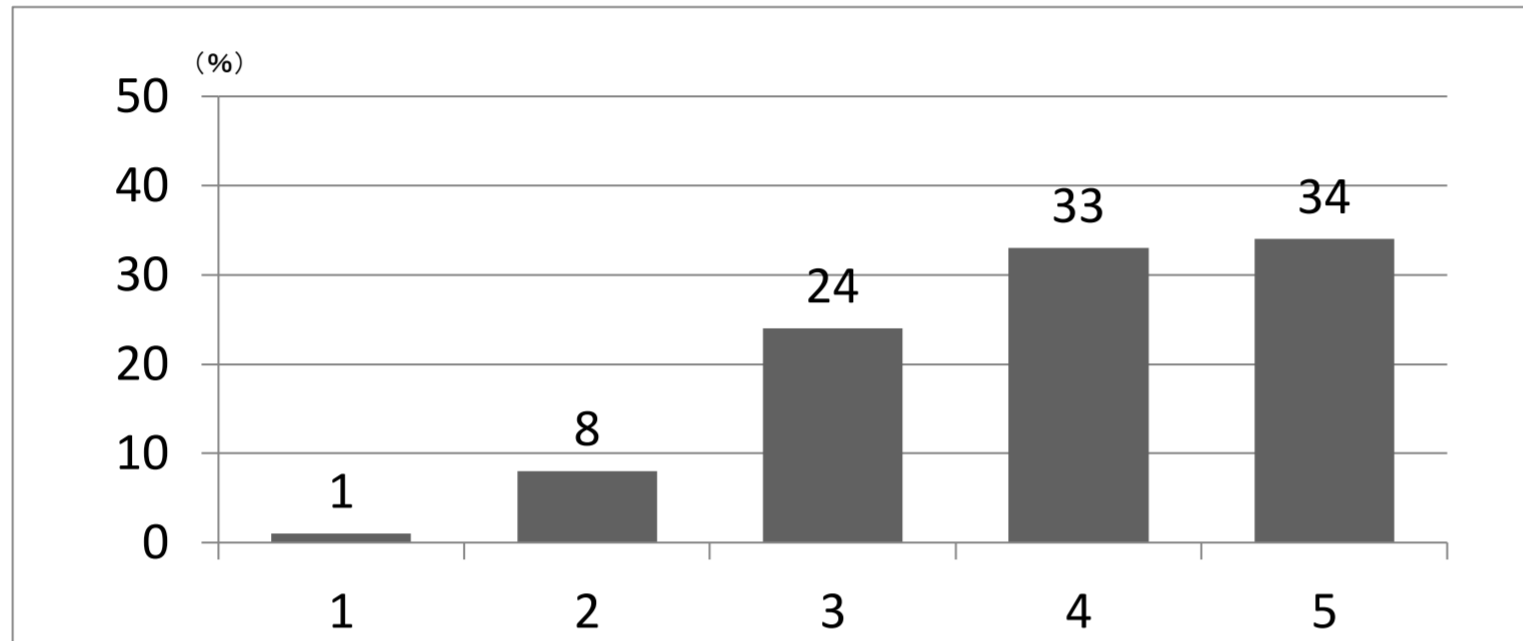
標準偏差 2.9



〈課題〉
 ・5段階の分布状況については、4、5の段階は、63%で全国と比べて1. 8ポイント高かった。1、2の段階は全国とほぼ同じであった。中央値は、10(14問)で、全国より1問高かった。下位層を引き上げていく必要がある。
 ・説得力のある文章にするために、推敲の際の意見と根拠の関係付けや、交流をする際の文章の構成に課題がみられた。

〔算数〕

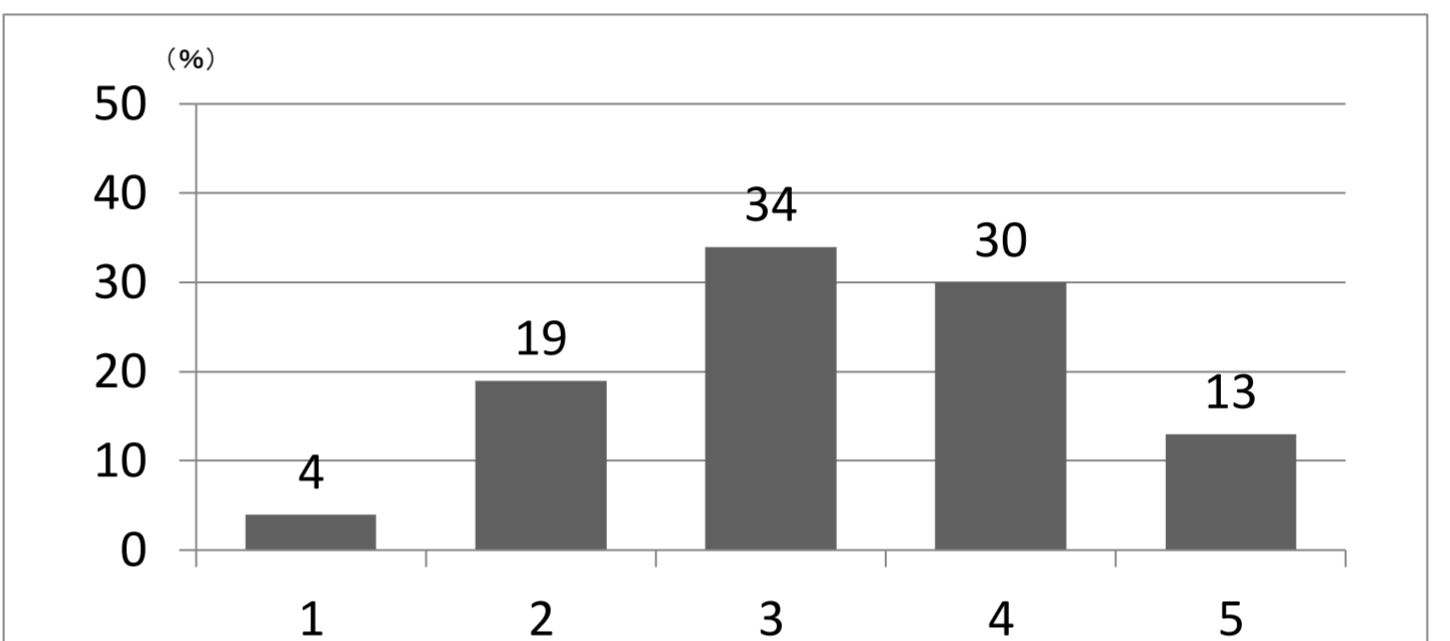
標準偏差 3.4



〈課題〉
 ・5段階の分布状況については、4、5の段階は67%で全国と比べて3. 7ポイント高かった。1、2の段階は、9%で全国と比べて2. 1ポイント低かった。
 ・道のりと時間の関係について考察すること、速さを求める除法の式と商の意味を捉えることに課題がみられた。

〔数学〕

標準偏差 3.7



〈課題〉
 ・5段階の分布状況については、4、5の段階は43%で全国と比べて1. 8ポイント高く、3段階の割合が34%で最も高くなった。
 ・図形領域において、平行四辺形になることの理由やいつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを表現するなど数学的な見方・考え方を働かせることに課題がみられた。

【改善策】

(市町村教育委員会におけるPDCAサイクルの取組について記載する。)

【C】 平均正答率は、全ての教科で全国を上回った。しかし、各教科の設問別に見ると平均正答率の低い設問(分野)や無回答の多い設問が見られる。質問紙調査においては、「自分の考えを発表する機会では、自分の考え方がうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問事項に対して、「発表していた」または「どちらかといえば、発表していた」と回答した割合が全国と比べて低く、他者に自分の考えを説明することを苦手としている児童・生徒が多いと思われる。

【A】 今後の具体的な取組

以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

〔小学校〕(国語科) 文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短く要約する活動。

(算数科) 数量関係に着目し、図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したりする活動。

〔中学校〕(国語科) 文学的な文章を読んで理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする活動。

(数学科) 図形の性質を見だし、それを数学的に表現し、根拠を明らかにして他者に説明する活動。

また、以下の取組を推進する。

- 「かごしま学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題」、タブレットを活用した演習問題(CBTによる自動採点方式)の積極的な活用。
- 一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学び。
- 担当指導主事の「マンスリーテレフォン(月初めの定期的な電話)」による課題や現状の把握及び授業改善。
- 児童質問紙、生徒質問紙の分析をし、非認知能力の育成を目指した教育活動。

【P】 12月上旬に、令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策(市教委作成)の冊子を配布し、管理職研修会や指導主事の校内研修派遣時において、上記の活動に重点的に取り組むよう指導する。

【D】 「今後の具体的な取組」の他、諸学力調査等の結果分析、共通実践事項の設定、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の指導、習得状況の見届けの徹底を引き続き行う。

※正答率分布グラフの各教科の段階は、以下のとおりです。

| | | | | |
|---------------|----------|-----------|------------|------------|
| 小 国語 「1」:0~2問 | 「2」:3~5問 | 「3」:6~ 8問 | 「4」: 9~11問 | 「5」:12~14問 |
| 小 算数 「1」:0~2問 | 「2」:3~6問 | 「3」:7~10問 | 「4」:11~13問 | 「5」:14~16問 |
| 中 国語 「1」:0~2問 | 「2」:3~5問 | 「3」:6~ 8問 | 「4」: 9~11問 | 「5」:12~14問 |
| 中 数学 「1」:0~2問 | 「2」:3~6問 | 「3」:7~10問 | 「4」:11~13問 | 「5」:14~16問 |

IV 学力調査分析（国語、算数・数学）

1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

| | 出題の趣旨 領域等【正答率・全国との比較】 |
|-----|--|
| 小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。 (思)読むこと5・6ア 2ー【74.4・ー3.2】 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。 (知)言葉の特徴 3.4カ 3三(2)オ【41.2・ー2.4】 ※ 目的や意図を明確に応じて、理由を明確にしなが、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫する。 (思)書くこと5.6ウ 3二【65.1・+8.5】 ※ 文の中における主語・述語の関係を捉える。 (知)言葉の特徴 3.4カ 3三(2)イ【76.0・+9.0】 |
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。 (思)書くこと2オ 2二【73.9・ー0.6】 事象や行為などを表す多様な語句について理解する。 (思)伝統的事項1イ(1)ウ 4二【70.8・ー3.2】 ※ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。 (思)読むこと1オ 3四【28.7・+8.2】 ※ 相手や場に応じて敬語を適切に使う。 (思)伝統的事項2イ(1) 4三【45.6・+5.3】 |

(2) 国語科の調査結果

小学校は、全ての領域等で、全国、県の正答率を上回る。また、問題形式についても、選択式、短答式、記述式の全てで、全国、県の正答率を上回る。評価の観点別については、知識・技能、思考・判断・表現の全てで全国、県を上回る。特に、「書くこと」は、全国比+8.1である。中学校は、全ての領域等で、全国、県の正答率を上回る。問題形式では、選択式で全国比+0.1である。評価の観点別については、知識・技能、思考・判断・表現の全てで全国、県を上回る。

本市国語科の課題

- 小学校では、説明的文章の「読むこと」に課題がある。
- 中学校では、文学的文章の「読むこと」に課題がある。

| 項 | 小学校 | 中学校 |
|-----------|------------|------------|
| 本市正答率(全国) | 68 (64.7) | 66 (64.6) |
| 正答率全国比 | +3.3 | +1.4 |
| 本市中央値(全国) | 10.0 (9.0) | 10.0 (9.0) |

- (3) 課題を示す特徴的な問題
- 【小学校 問題2二】
- 《【資料】を読んで、便利なものについて調べる問題》
- 一 相川さんが読んだ【資料】の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過に沿って書かれています。
 - 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれています。
 - 面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げて書かれています。
 - 面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えが繰り返し書かれています。
- ※ 四 【資料】を読み、条件に沿って要約する問題（本市正答率35.7、全国比+6）の向上につなげたい。
- 【小学校 問題3三(2)オ】
- 《修飾・被修飾の関係を捉える問題》
- 三(2) 次の分について、〰〰〰線部「すぐに」はどの言葉をくわしくしていますか。適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけられることがむずかしい場面もあるでしょう。
- 遊び終わったら
 - 遊具を
 - かたづける
 - むずかしい

【本市正答率】41.2%(全国比-2.4)

文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることは、文章に書かれていることを正確に理解することにつながる。正確な読みの確認をするとともに、話したり、書いたりするときに、一意となる表現となっているかを確認させることも必要である。

【本市正答率】74.4%(全国比-3.2)

相川さんが読んだ【資料】の内容とともに、どのような書かれ方をしていたかを捉える必要がある。選択肢2~4もそれぞれ説明の仕方の工夫として捉えられるため、既習教材等で確認していく必要がある。

【中学校 問題2-1-2】

《意見文の推敲の効果や構成のよさを捉える問題》

山田さんは「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いていきます。【意見文の下書き】を読んで、あとの問いに答えなさい。

- 一 山田さんが、A、Bのように直した意図として適切なものを選ぶ問題。

【意見文の下書きの一部】

相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

A からだ

B 「集場所までどうやって来るの。」と友達に誤解を与えないように丁寧に書いていれば、

- 二 山田さんが書いた【意見文の下書き】の構成にはどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、あなたの考えを書きなさい。

【中学校 問題3-4】

《文章に表れているものの見方等を捉え、自分の考えをもつ問題》

夏目漱石の作品「吾輩は猫である」の本のカバーに書かれている【紹介】と、【文章の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

- 四 【紹介】に「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】

では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」についてどのような接し方をしていることがわかるのかを書くこと。
- 条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

【本市正答率】28.7% (全国比+8.2)

「評価」の意味を文脈上、正確に捉えているか、確認が必要である。書評など類似の課題に取り組みさせるなど、意見と根拠となる表現を関係付けた論理的な文章を書く学習の設定が、内容の理解とともに引用を含めた表現の仕方を学習する活動として必要である。

一 【本市正答率】24.6% (全国比-0.2)

二 【本市正答率】73.9% (全国比-0.6)

意見文をより説得力のある文章にするために、意見と根拠の関係付けなど、観点を明確にした推敲や、交流をする際に明確な評価の観点（文章の構成、表現の仕方など）を設定した学習活動に取り組みさせる必要がある。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校共に、「国語を好きだ」と回答している児童生徒の割合は約60%であるが、「社会で役に立つと考えている」と回答した児童生徒の割合は、90%と高い。また、「目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」と回答している児童生徒の割合は約60%で他の学習活動に対する質問より取組の割合が低い。

小・中学校共に国語の学習に対して「社会で役に立つ」と考えており、学んだことが実生活と関連付くことを実感できるようにすることにより、学ぶ楽しさにつながると考えられる。また、話合いのテーマ等を工夫し、話したり、質問したりする必然性をもたせたい。

(5) 改善のポイント・実践例

【小中共通】

・ 単元で指導すべき「指導事項」、それを身に付けるに適した「言語活動」、鍵となる「ものの見方・考え方」を明確にした単元設定を行うことによる、何が分かり、何ができるようになったか、どのように解決したかなど、子供の「振り返り」の時間の充実。

・ 子供が取り組みたいと思う（一人一人の考えが生かされる）「導入（学習課題）」、「単元計画」の設定を工夫することによる、主体的な学習態度の育成。

【小学校】

・ 文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短く要約することができるようにする指導。

【中学校】

・ 文学的な文章を読んで「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることで、自分の考えをもちやすくなる指導。

・ 近代以降の代表的な作家の作品を取り上げ、必要に応じて語注なども参考にし、登場人物の言動などを整理しながら内容を捉えるようにする指導。

| 番号 | 質問内容 | | 本市 | 全国比 |
|-----|------------------------|---|------|------|
| 小43 | 国語の勉強は好きか。 | 小 | 54.1 | -4.3 |
| 中43 | | 中 | 60.6 | -0.2 |
| 小46 | 将来、社会で役に立つと思うか。 | 小 | 91.2 | -0.6 |
| 中46 | | 中 | 89.5 | 0.8 |
| 小48 | 自分の考えを話したり、質問したりしているか。 | 小 | 62.4 | -1.4 |
| 中48 | | 中 | 58.4 | -2.9 |

2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

(1) 算数・数学科の調査結果

小学校・中学校ともに全国の平均正答率を上回る。

| 項 | 算数 | 数学 |
|-----------|-------------|-------------|
| 本市正答率(全国) | 72 (70.2) | 58 (57.2) |
| 正答率全国比 | +1.8 | +0.8 |
| 本市中央値(全国) | 12.0 (12.0) | 10.0 (10.0) |

(2) 本市算数・数学科の課題

- 問題場面から二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて表すことで、変化や対応の特徴を見いだしたり、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を捉えたりすることに課題が見られた。
- 図形領域において、四角形が平行四辺形になることの理由やある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現するなど数学的な見方・考え方に課題が見られた。

| 【全国との比較】 | |
|----------|---|
| 小学校・算数 | <ul style="list-style-type: none"> 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。 [1] (3) [-4.5] 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 [1] (2) [-0.8] ※ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。 [2] (3) [+6.8] ※ 小数を用いた倍についての説明を理解し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述できる。 [4] (3) [+5.5] |
| | <ul style="list-style-type: none"> データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 [8] (3) [-0.5] 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。 [9] (1) [-0.9] ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。 [9] (3) [-1.2] ※ 相対度数の必要性和意味を理解している。 [8] (2) [+5.0] |
| 中学校・数学 | |

(3) 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年 問題1 (3)】

二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

| 道のりと時間 | | |
|-----------|---------|--------|
| | 道のり (m) | 時間 (分) |
| ㊦ インターネット | 1600 | 20 |
| ㊧ たけるさんたち | 500 | 7 |

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊦のほうが速い。
- 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊧のほうが速い。
- 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
- 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。

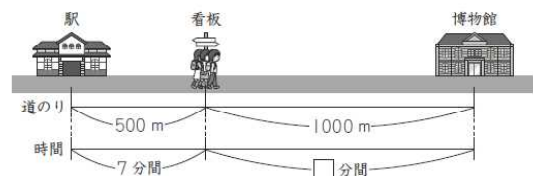
【本市正答率】 51.3% [全国比-4.5]

「2」と解答した児童が26.2%いた。示された除法の式が1分間あたりに進む道のりを求める式であることは理解しているが、求めた商を比べたとき、数が小さいほうが速いと捉えていると考えられる。どちらが速いかを比べる際に、道のり又は時間のどちらを単位量として設定しているかを考えることを通して、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにすることが重要である。

【小学校6年 問題1 (2)】

500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く問題

(2) たけるさんたちは、駅から7分間歩いたところで、「博物館まで1000m」や「駅まで500m」と書いてある看板を見つけました。



500mを7分間で歩く速さで歩き続けると、1000mを歩くのに何分間かかりますか。
答えを書きましょう。

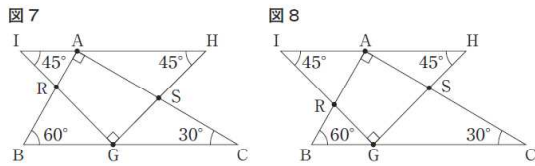
【本市正答率】 85.9% [全国比-0.8]

「2 1」と解答した児童が5.0%いた。駅から博物館までの道のり1500mを移動するのにかかる時間を誤って求めていると考えられる。また、解答類型以外の解答をした児童が6.0%に上った。道のりと時間の関係に着目しながら変化の規則性を十分に捉えきれていないことが考えられる。問題場面から二つの数量の関係に着目しながら、変化の規則性を捉え、その変化の特徴を用いて問題を解決できるようにすることが重要である。

【中学校3年 問題9】(3)

∠ARGや∠ASGの大きさについて、いつでもいえることを書く問題

点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるように、△GHIを左に動かしたとき、二人は、四角形ARGSが長方形にならないと考え、次のような図7、図8をかきました。



二人は、図7、図8で、四角形ARGSが長方形にならないことから、四角形ARGSがどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「△GHIを動かすと四角形ARGSの4つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「∠RASと∠RGSの大きさはそれぞれ90°で変わらないね。∠ARGと∠ASGの大きさはどうかな。」

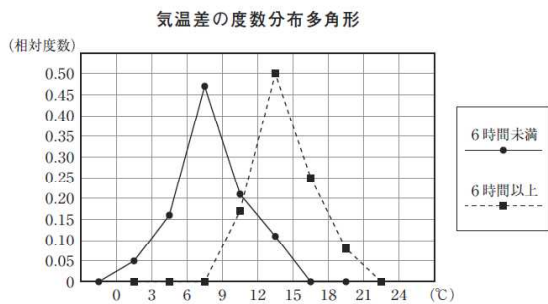
△GHIを動かしても、四角形ARGSの∠ARGと∠ASGの和はいつでも180°になります。このほかに、∠ARG、∠ASGの大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

【本市正答率】 27.6% [全国比-1.2%]

(2) で用いられた三角形の外角の性質(三角形の外角は、これととなり合わない2つの内角の和に等しい)について、いつでも成り立つことを理解していたかどうかを問われる問題であったが、無回答が29%と多かった。ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるように指導することが大切である。

【中学校3年 問題8】(3)

「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する問題



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

【本市正答率】 10.6% [全国比-0.5%]

横軸を気温差、縦軸を相対度数とした度数分布多角形(度数折れ線)については、見慣れない生徒も多かったと思われるが、前問(2)の相対度数の理解を問う問題においても正答率41.8%(全国比+5%)であり、課題が見られる。縦軸を度数ではなく、相対度数とすることの必要性を確認し、相対度数を用いることよさを実感させることが大切である。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

- ① 算数・数学の勉強は好きですか
- ② 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき、役に立つと思いますか

| | 番号 | 本市 | 全国 | 全国比 (R元) |
|----|----|------|------|-------------|
| 算数 | ① | 71.2 | 67.8 | +3.4 (+3.7) |
| | ② | 92.2 | 92.6 | -0.4 (-0.8) |
| 数学 | ① | 59.1 | 59.1 | 0 (+3.2) |
| | ② | 78.6 | 74.6 | +4.0 (+4.2) |

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

「算数・数学に対する興味・関心」について、小学校は全国を3.4ポイント上回るが、これはR元年度より1.1ポイント低い。中学校は全国と同程度であったが、これはR元年度より2ポイント低い。小・中学校共に減少傾向が見られる。

「社会での有用性」について、小学校は全国を0.4ポイント下回るが、これは、R元年度より0.5ポイント高い。中学校は、全国を4ポイント上回るが、これはR元年度より1.8ポイント低い。全国の傾向と同様に、中学校は減少傾向が見られる。

(5) 授業改善のポイント

ア 算数・数学共通

- 児童・生徒が目的意識をもって事象を数学化し、自ら問題を設定し、その解決のために新しい概念や原理・法則を見いだすことができるような学習課題の設定、発問の工夫が大切である。
- 問題解決学習を授業に取り入れ、答えの予想を含む解決の見通しをもたせ、自分で考え、その考えを周りに説明し、共有する活動を重視し、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等のバランスのよい定着を図る。

イ 算数

- 日常生活の事象を学習問題として取り上げることで、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解するとともに、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする活動を積極的に取り入れることが大切である。
- 二つの数量の関係について、それらの関係に着目しながら、表や式を用いて表し、変化や対応の特徴を筋道を立てて考察する活動を通して、求めたい数量の結果を導いていくことが大切である。

ウ 数学

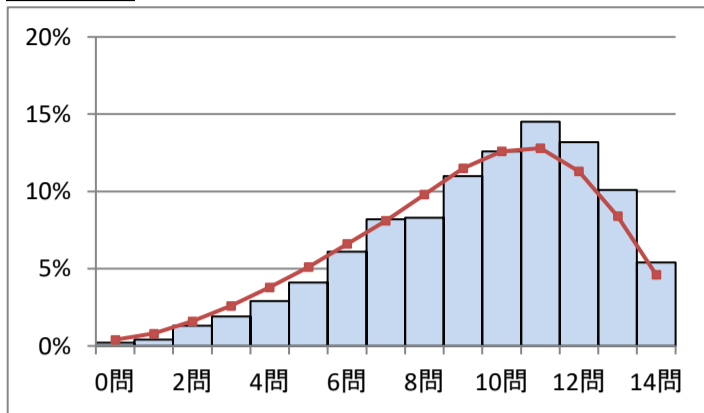
- 図形の性質を考察する授業においては、解決の方針を立て、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えさせることや解釈したことを数学的に表現させることが大切である。
- 複数のデータに基づいて日常生活の事象を考察する授業においては、適切な代表値を選択し、それを用いた理由も含めて説明させることが大切である。

3 正答数分布グラフ

(※横軸: 正答数、縦軸: 児童生徒数の割合 ※棒グラフ: 鹿児島市、折れ線グラフ: 全国)

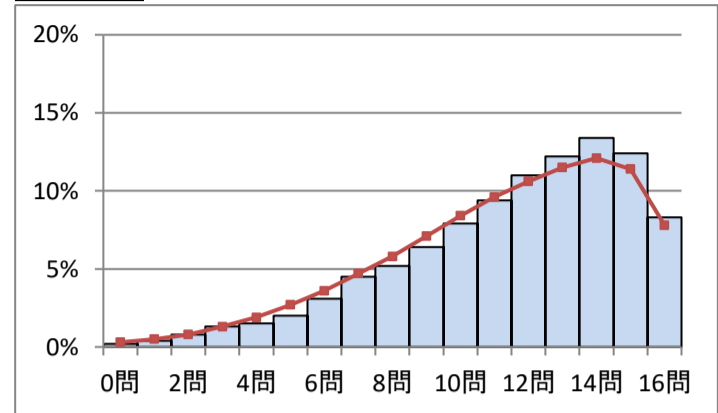
小学校

国語



| | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|----|----------|----------|-----|------|
| 本市 | 9.5 / 14 | 68 | 10 | 2.9 |
| 全国 | 9.1 / 14 | 64.7 | 9 | 3.1 |

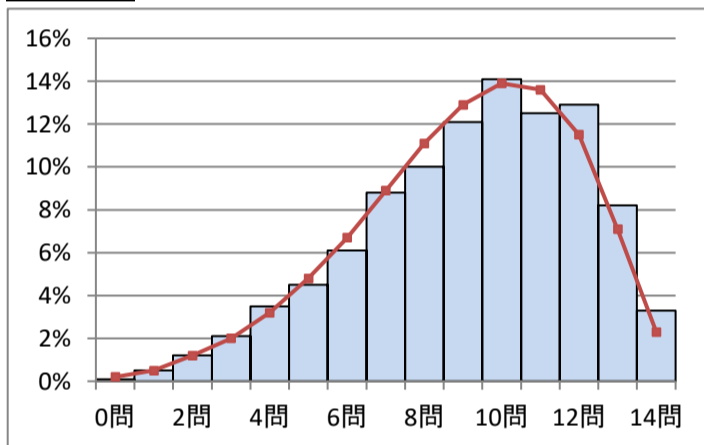
算数



| | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|----|-----------|----------|-----|------|
| 本市 | 11.5 / 16 | 72 | 12 | 3.4 |
| 全国 | 11.2 / 16 | 70.2 | 12 | 3.5 |

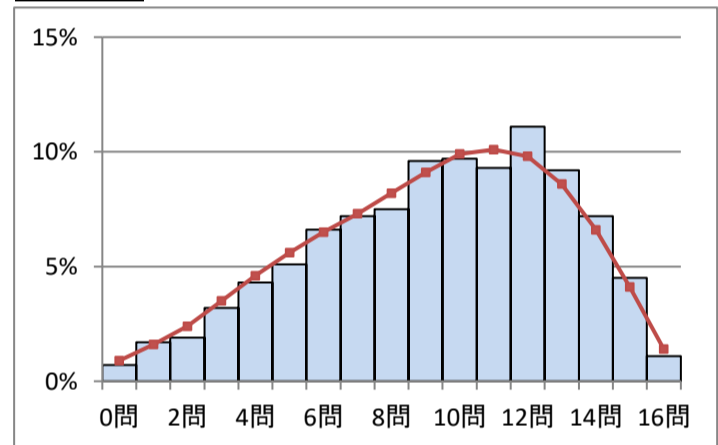
中学校

国語



| | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|----|----------|----------|-----|------|
| 本市 | 9.2 / 14 | 66 | 10 | 2.9 |
| 全国 | 9.0 / 14 | 64.6 | 9 | 2.8 |

数学



| | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|----|----------|----------|-----|------|
| 本市 | 9.3 / 16 | 58 | 10 | 3.7 |
| 全国 | 9.1 / 16 | 57.2 | 10 | 3.7 |

〈用語の説明〉

| | |
|------|--|
| 中央値 | 集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。 |
| 標準偏差 | 集団のデータを平均値からの離れ具合(散りばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。 |

※ [平均値-標準偏差]以上[平均値+標準偏差]以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

例えば、本市の小学校国語について、平均正答数が9.5、標準偏差が2.9であるので、6.6問(約7問)から12.4問(約12問)の間に、本市の小学6年生の約68%が含まれているということがいえます。

V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問紙から特徴的なものを抜粋しました(単位は%)。

空欄に貴校のデータを書き込み(入力)、全国や本市と比較してください。

児童生徒に対する質問紙調査結果の空欄には、貴校の割合(%)を、学校質問紙調査結果の空欄には、①～④等の回答を書き込み(入力)、比較しましょう(エクセルデータをSee-Smile(配布物管理)でも配信します。)

□の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう(全て記入する必要なく対策の重点化)。

- ・ 上段は、「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答した割合
下段は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合
- ・ ↑は、昨年度と比較し、2ポイント以上上回っていたもの、↓は、2ポイント以上下回っていたもの(上段のみ)
- ・ ※は、昨年度、質問項目になかったもの

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

基本的な生活習慣等に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|-------|-----|------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 1 朝食を毎日食べていますか | | 95.1 | 0.2 | | 93.3 | 0.5 |
| | | 85.6 | -0.2 | | 83.2 | 1.4 |
| 2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか | | ↓ 77.9 | -3.3 | | 81.0 | 1.2 |
| | | 30.7 | -7.6 | | 34.7 | -1.6 |
| 3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか | | ↓ 88.7 | -1.7 | | 93.3 | 0.6 |
| | | 50.5 | -4.5 | | 57.3 | -0.3 |
| ※4 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか | | 72.4 | 2.3 | | 71.2 | 3.3 |
| | | 39.3 | 1.3 | | 30.1 | -0.8 |
| ※5 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合 | | 36.1 | -13.3 | | 37.9 | -19.1 |
| | | 17.7 | -11.3 | | 15.4 | -16.9 |

【分析・対策】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---------------------------------|-----|--------|------|-----|--------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 6 自分には、よいところがあると思いますか | | ↓ 74.9 | -2.0 | | 74.0 | -2.2 |
| | | 30.5 | -5.7 | | 30.1 | -4.4 |
| 7 将来の夢や目標を持っていますか | | ↓ 83.4 | 3.1 | | 71.5 | 2.9 |
| | | 65.1 | 4.9 | | 44.4 | 3.9 |
| ※8 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか | | 84.4 | 0.1 | | 84.2 | 0.0 |
| | | 34.7 | -1.2 | | 33.9 | -0.8 |
| 9 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか | | ↓ 69.4 | -1.5 | | ↓ 66.4 | 0.5 |
| | | 22.6 | -1.8 | | 19.0 | -1.0 |
| 10 人が困っているときは、進んで助けていますか | | 88.5 | -0.2 | | 89.5 | 1.0 |
| | | 41.8 | -1.8 | | 42.1 | 0.5 |
| 11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | | 96.9 | 0.1 | | 96.6 | 0.7 |
| | | 84.6 | 0.5 | | 83.2 | 1.8 |

| | | | | | | | |
|-----|--------------------------------------|--|--------|------|--|------|------|
| 12 | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか | | 95.8 | 0.3 | | 95.9 | 0.9 |
| | | | 76.7 | 1.3 | | 78.0 | 3.7 |
| 13 | 学校に行くのは楽しいと思いますか | | ↓ 84.4 | 1.0 | | 82.8 | 1.7 |
| | | | 49.1 | 1.2 | | 45.0 | 1.7 |
| ※14 | 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか | | 68.0 | -2.3 | | 74.0 | -1.2 |
| | | | 25.2 | -1.5 | | 30.6 | -2.2 |
| ※15 | 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか | | 70.9 | 0.8 | | 75.2 | 0.5 |
| | | | 26.8 | 0.2 | | 26.9 | -2.4 |
| ※16 | 友達と協力するのは楽しいと思いますか | | 94.5 | 0.6 | | 93.8 | 0.5 |
| | | | 74.6 | 2.6 | | 67.9 | 2.1 |

【分析・対策】

学習習慣等に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | | |
|------|---|------|--------|-------|------|-------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | |
| ※17 | 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む） | | 75.6 | 1.6 | | 63.6 | 0.1 |
| | | | 29.4 | -1.8 | | 17.7 | -1.7 |
| 18 | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、1時間以上と回答した割合 下段は、2時間以上と回答した割合 | | 68.3 | 5.8 | ↑ | 82.2 | 6.3 |
| | | | 28.4 | 1.5 | | 50.2 | 8.4 |
| ※19 | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合 | | 30.6 | 0.9 | | 62.6 | 9.1 |
| | | | 12.4 | -2.8 | | 30.8 | 4.0 |
| ※20 | 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む） ◆上段は、教わっていないと回答した割合 下段は、教わっていると回答した割合 | | 62.7 | 10.1 | | 40.4 | 4.0 |
| | | | 37.2 | -10.2 | | 59.4 | -4.1 |
| 21 | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ◆上段は、30分以上と回答した割合 下段は、1時間以上と回答した割合 | | 42.2 | 4.8 | ↑ | 35.8 | 6.9 |
| | | | 19.6 | 1.4 | | 16.1 | 2.0 |
| ※22 | 【小学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） 【中学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） ◆上段は、101冊以上と回答した割合 下段は、201冊以上と回答した割合 | | 30.4 | -5.8 | | 29.5 | -4.4 |
| | | | 17.0 | -3.7 | | 16.7 | -3.6 |
| 23 | 新聞を読んでいますか | | ↓ 13.2 | -1.6 | | ↓ 8.7 | -1.7 |
| | | | 3.9 | -1.2 | | 3.2 | -0.2 |
| ※30 | あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか | | 97.7 | 0.8 | | 97.1 | 0.8 |
| | | | 85.3 | 0.2 | | 90.2 | 1.0 |

【分析・対策】

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|------------------------------------|-----|--------|------|-----|--------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 24 今住んでいる地域の行事に参加していますか | | ↓ 58.2 | 0.1 | | ↓ 41.2 | -2.5 |
| | | 27.5 | 0.8 | | 15.1 | -1.2 |
| 25 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか | | ↓ 50.1 | -2.3 | | ↑ 39.4 | -4.4 |
| | | 14.9 | -2.9 | | 9.9 | -2.7 |

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|-----|------|------|-----|--------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 26 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合 | | 33.4 | -6.7 | | ↓ 35.8 | 2.4 |
| | | 8.4 | -2.8 | | 6.8 | -0.6 |
| ※27 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合 | | 68.0 | -0.1 | | 50.6 | -12.4 |
| | | 36.7 | -2.3 | | 23.2 | -11.6 |
| ※28 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか | | 93.6 | -0.9 | | 93.7 | 0.5 |
| | | 63.7 | -2.4 | | 61.6 | 1.2 |
| ※29 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか ◆上段は、1時間以上と回答した割合 下段は、2時間以上と回答した割合 | | 16.4 | -3.5 | | 17.9 | -1.6 |
| | | 6.2 | -2.1 | | 5.5 | -1.5 |

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|------|-----|--------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| ※31 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか | | 83.2 | 0.6 | | 85.1 | 1.4 |
| | | 33.3 | -0.5 | | 34.5 | -2.3 |
| 32 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか | | 57.7 | -5.8 | | ↑ 53.1 | -8.9 |
| | | 20.3 | -3.3 | | 15.3 | -5.7 |
| 33 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか | | ↓ 76.2 | -2.0 | | ↑ 78.7 | -2.3 |
| | | 27.8 | -2.5 | | 28.7 | -4.8 |
| ※34 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか | | 66.0 | -1.2 | | 53.1 | -6.4 |
| | | 22.2 | -1.6 | | 13.5 | -4.4 |
| ※35 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか | | 80.9 | -0.5 | | 71.2 | -3.1 |
| | | 39.8 | 0.3 | | 19.3 | -4.2 |
| ※36 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか | | 95.4 | -0.1 | | 96.4 | -0.1 |
| | | 59.8 | -2.4 | | 66.2 | -0.9 |

| | | | | | | | | |
|-----|--|---|------|------|--|---|------|------|
| 37 | 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか | ↑ | 78.2 | -0.6 | | ↑ | 78.9 | 1.1 |
| | | | 29.5 | -3.5 | | | 32.6 | -1.3 |
| ※38 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか | | 79.1 | 0.8 | | | 72.3 | -2.3 |
| | | | 33.1 | 0.5 | | | 23.4 | -2.9 |

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | | | |
|------|---|------|------|------|------|-----|------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | | |
| 39 | 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか | ↑ | 77.8 | 4.8 | | ↑ | 72.6 | 2.4 |
| | | | 36.9 | 5.2 | | | 29.7 | 1.5 |
| 40 | あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか | | 69.7 | -3.7 | | ↑ | 68.9 | -5.0 |
| | | | 27.4 | -4.9 | | | 22.3 | -6.0 |
| 41 | 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか | | 70.7 | -2.8 | | ↑ | 67.1 | -2.7 |
| | | | 26.3 | -4.0 | | | 22.4 | -2.7 |
| 42 | 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか | | 83.7 | 2.6 | | ↑ | 88.9 | 2.7 |
| | | | 50.1 | 4.5 | | | 53.0 | 4.2 |

【分析・対策】

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

生徒指導等

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | | | |
|------|--|------|------|------|------|-----|-------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | | |
| 7 | 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか | | 87.2 | -1.3 | | | 94.7 | -1.3 |
| | | | 37.2 | -8.6 | | | 68.4 | -0.7 |
| 8 | 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか | ↑ | 96.2 | 10.9 | | | 100.0 | 2.1 |
| | | | 21.8 | 1.5 | | | 42.1 | -7.5 |
| 9 | 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか | | 94.8 | 0.2 | | ↓ | 94.7 | 2.0 |
| | | | 39.7 | -6.0 | | | 44.7 | 1.2 |
| ※10 | 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話している時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか | | 94.9 | -2.0 | | | 100.0 | 1.2 |
| | | | 59.0 | -3.3 | | | 60.5 | -15.3 |
| 11 | 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか | | 98.7 | 0.0 | | | 100.0 | 1.4 |
| | | | 62.8 | -1.3 | | | 50.0 | -13.8 |

【分析・対策】

学校運営に関する状況

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | | | |
|------|-----------------------------|------|-------|------|------|-----|-------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | | |
| 15 | 学校として、必要な場合に、変化に柔軟に対応していますか | | 100.0 | 0.4 | | | 100.0 | 0.6 |
| | | | 69.2 | -0.5 | | | 57.9 | -9.2 |

| | | | | | | | |
|----|--|---|------|------|---|-------|-------|
| 16 | 学校として、業務改善に取り組んでいますか | | 100 | 2.5 | | 100.0 | 3.6 |
| | | | 61.5 | 19.2 | | 42.1 | 2.1 |
| 18 | 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか | | 98.7 | 4.3 | ↓ | 92.1 | 1.5 |
| | | | 41.0 | 10.8 | | 31.6 | 4.7 |
| 19 | 児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか | ↓ | 93.6 | 0.0 | ↑ | 97.3 | 4.6 |
| | | | 37.2 | 6.1 | | 18.4 | -11.4 |
| 20 | 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか | ↓ | 96.1 | 1.9 | ↓ | 84.2 | -0.4 |
| | | | 33.3 | -4.3 | | 15.8 | -10.3 |
| 21 | 【小学校】言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか 【中学校】言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか | ↓ | 93.6 | -2.0 | ↑ | 94.7 | 0.4 |
| | | | 35.9 | -5.3 | | 44.7 | 5.8 |

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|-------|-----|--------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 29 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか | | ↓ 88.5 | 3.2 | | ↑ 92.1 | 6.1 |
| ※30 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか | | 16.7 | -1.8 | | 15.8 | -2.6 |
| | | 74.3 | 6.0 | | 73.7 | -1.9 |
| ※31 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか | | 6.4 | -3.3 | | 18.4 | 6.3 |
| | | 91.0 | 8.6 | | 92.1 | 5.5 |
| ※32 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | | 14.1 | -2.8 | | 15.8 | -3.5 |
| | | 76.9 | 1.1 | | 84.2 | 0.6 |
| ※33 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか | | 12.8 | -0.2 | | 15.8 | -2.1 |
| | | 91.0 | 1.1 | | 97.4 | 2.2 |
| ※34 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか | | 20.5 | -10.8 | | 31.6 | -10.0 |
| | | 87.2 | -0.5 | | 89.4 | 4.9 |
| ※35 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか | | 23.1 | -7.2 | | 10.5 | -16.0 |
| | | 97.4 | 0.8 | | 100.0 | 4.9 |
| 36 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか | | 39.7 | -10.3 | | 23.7 | -16.1 |
| | | 89.7 | 1.6 | | 84.3 | -2.6 |
| 37 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか | | 21.8 | 0.6 | | 13.2 | -6.4 |
| | ↓ | 82.0 | 0.6 | ↓ | 84.3 | 11.7 |
| ※38 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れれましたか | | 14.1 | -2.4 | | 13.2 | 0.9 |
| | | 75.6 | 2.5 | | 79.0 | 11.4 |
| ※39 【小学校】調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字（400字詰め原稿用紙2枚）程度で児童にまとめさせたことがありましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1、200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがありましたか | | 14.1 | 2.4 | | 5.3 | -4.7 |
| | | 56.4 | 1.0 | | 52.6 | 12.3 |
| | | 15.4 | 4.6 | | 2.6 | -4.5 |

| | | | | | | | |
|-----|--|--|------|------|--|------|------|
| ※40 | 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか | | 85.9 | 15.9 | | 52.6 | 12.4 |
| | ◆上段は、月に数回程度以上行ったと回答した割合 下段は、週に1回程度、または、それ以上行ったと回答した割合 | | 24.4 | 3.7 | | 7.9 | -1.4 |

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|-----|--------|-------|-----|--------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 41 調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか | | ↓ 93.6 | 2.9 | | ↑ 89.5 | 1.4 |
| | | 24.4 | -7.2 | | 34.2 | 1.2 |
| 42 調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか | | ↑ 97.4 | 2.9 | | ↑ 92.1 | -1.8 |
| | | 25.6 | -14.9 | | 28.9 | -8.6 |
| 43 調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか | | ↑ 93.6 | 0.3 | | ↑ 97.3 | 5.2 |
| | | 33.3 | -1.1 | | 28.9 | -2.8 |
| 44 調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか | | ↑ 100 | 3.0 | | ↑ 97.4 | -0.5 |
| | | 41.0 | 0.2 | | 39.5 | -9.7 |

【分析・対策】

学習評価

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|-----|------|------|-----|------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| ※45 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか | | 94.8 | -1.0 | | 94.8 | -1.0 |
| | | 33.3 | -3.6 | | 23.7 | -11.2 |
| ※46 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか | | 93.5 | -3.1 | | 94.7 | -1.0 |
| | | 39.7 | -1.1 | | 34.2 | -1.6 |
| ※47 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をしましたか | | 87.2 | 2.8 | | 94.7 | 6.4 |
| | | 21.8 | -3.0 | | 15.8 | -14.2 |
| ※48 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか | | 98.7 | 0.4 | | 97.3 | -0.5 |
| | | 61.5 | -6.1 | | 52.6 | -9.0 |

【分析・対策】

国語科の指導方法に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|------|-----|---------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 49 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか | | ↓ 92.3 | 6.9 | | ↑ 100.0 | 13.5 |
| | | 29.5 | 2.5 | | 34.2 | 8.7 |
| 50 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか | | 75.6 | 19.0 | | ↑ 89.5 | 16.6 |
| | | 14.1 | 6.3 | | 15.8 | 0.7 |

| | | | | | | | |
|-----|--|--|------|------|--|------|------|
| ※51 | 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか | | 93.6 | 2.2 | | 97.3 | 2.5 |
| | | | 21.8 | -0.2 | | 28.9 | -6.9 |
| ※52 | 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか | | 91.0 | -1.8 | | 92.1 | 3.8 |
| | | | 23.1 | -6.8 | | 26.3 | -5.7 |
| ※53 | 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか | | 92.3 | 2.7 | | 94.7 | 0.4 |
| | | | 21.8 | -2.7 | | 34.2 | -5.5 |
| ※54 | 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか | | 93.6 | -0.3 | | 94.8 | 2.1 |
| | | | 28.2 | -2.4 | | 31.6 | -4.3 |

【分析・対策】

算数・数学科の指導方法に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | | |
|--|-----|------|-------|------|-------|-------|-----|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | |
| 55 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか | | 98.7 | 4.1 | ↑ | 100.0 | 7.3 | |
| | | 51.3 | 2.7 | | 55.3 | 15.3 | |
| 56 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか | | ↓ | 83.3 | 16.2 | ↓ | 76.4 | 0.6 |
| | | 20.5 | 6.3 | | 13.2 | -5.3 | |
| 57 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか | | 84.6 | 2.4 | ↓ | 81.6 | 3.5 | |
| | | 15.4 | -1.8 | | 7.9 | -8.1 | |
| ※58 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか | | 92.3 | 0.4 | | 81.6 | 5.4 | |
| | | 20.5 | -10.3 | | 10.5 | -6.6 | |
| ※59 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか | | 94.9 | -2.2 | | 97.4 | 0.9 | |
| | | 32.1 | -10.6 | | 31.6 | -11.4 | |
| ※60 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか | | 92.3 | -0.6 | | 94.8 | 5.3 | |
| | | 29.5 | -9.7 | | 31.6 | -5.2 | |

【分析・対策】

英語科の指導方法に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|------|------|-----|------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| ※61 【小学校】調査対象学年の児童に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか | | 92.3 | -1.2 | | 97.3 | 4.0 |
| | | 52.6 | 7.2 | | 36.8 | -8.2 |

| | | | | | |
|-----|--|------|------|------|------|
| ※62 | 【小学校】学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けていますか | 78.2 | 10.6 | 92.1 | 3.7 |
| | 【中学校】全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実などの授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善などの学習評価の改善に取り組んでいますか | 23.1 | 7.5 | 26.3 | -5.7 |

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|-----|------|-------|-----|------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| ※63 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていますか | | 97.4 | 7.0 | | 89.5 | 0.9 |
| | | 34.6 | -1.3 | | 31.6 | -3.7 |
| ※64 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか | | 35.9 | -3.5 | | 34.2 | -5.3 |
| | | 9.0 | -0.3 | | 2.6 | -7.2 |
| ※65 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、校務改善を行うための準備ができていますか | | 92.3 | 18.2 | | 92.2 | 20.7 |
| | | 29.5 | 15.4 | | 21.1 | 6.9 |
| 66 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合 | | 98.7 | 12.1 | | 92.1 | 4.3 |
| | | 84.6 | 30.8 | | 60.5 | 2.2 |
| ※67 教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童の状況に応じた指導に活用していますか | | 60.3 | 16.4 | | 39.5 | 0.4 |
| | | 10.3 | 3.3 | | 5.3 | -0.8 |
| ※68 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか | | 89.8 | 5.0 | | 81.6 | 3.2 |
| | | 37.2 | 2.3 | | 26.3 | -5.3 |
| ※69 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか | | 50.0 | -3.8 | | 39.5 | -12.6 |
| | | 11.5 | -10.8 | | 5.3 | -16.4 |
| ※70 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ①教職員間の連絡 | | 94.8 | 16.7 | | 97.3 | 16.7 |
| | | 69.2 | 28.4 | | 68.4 | 24.8 |
| ※71 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童生徒がやりとりする場面 | | 43.6 | -1.1 | | 42.1 | 0.6 |
| | | 9.0 | -1.6 | | 10.5 | -0.7 |
| ※72 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ③児童生徒同士がやりとりする場面 | | 32.1 | 2.0 | | 21.1 | -4.7 |
| | | 2.6 | -2.6 | | 5.3 | -0.2 |
| ※73 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ④教職員と家庭との連絡 | | 38.5 | -1.1 | | 31.6 | -12.3 |
| | | 10.3 | -0.5 | | 7.9 | -5.1 |
| ※74 あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ⑤児童生徒が1人で活用する場面 | | 83.4 | 8.8 | | 57.9 | -4.7 |
| | | 30.8 | 5.4 | | 15.8 | -4.0 |
| ※75 あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ◆1段は、毎日持ち帰って、毎日利用させている 2段は、毎日持ち帰って、時々利用させている 3段は、時々持ち帰って、時々利用させている 4段は、持ち帰らせていない 5段は、持ち帰ってはいけないこととしている 6段は、まだ配備されていない と回答した割合 | | 0.0 | -3.2 | | 0.0 | -4.8 |
| | | 0.0 | -3.4 | | 0.0 | -3.8 |
| | | 0.0 | -13.9 | | 0.0 | -12.2 |
| | | 84.6 | 30.0 | | 68.4 | 16.1 |
| | | 11.5 | -2.1 | | 18.4 | 2.3 |
| | | 3.8 | -7.4 | | 13.2 | 2.5 |

【分析・対策】

特別支援教育に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|-----|-----|---------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 76 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか | | ↓ 96.2 | 1.8 | | ↑ 100.0 | 6.7 |
| | | 43.6 | 2.9 | | 34.2 | -8.5 |
| 【分析・対策】 | | | | | | |

小学校教育と中学校教育の連携に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|------|-----|--------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 77 前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか | | 73.0 | 13.9 | | ↑ 73.7 | 8.7 |
| | | 17.9 | 0.9 | | 13.2 | -10.3 |
| 78 前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか | | ↓ 66.6 | 9.2 | | ↑ 73.7 | 8.6 |
| | | 17.9 | -0.2 | | 10.5 | -15.7 |
| 79 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校〔小学校〕と成果や課題を共有しましたか | | ↓ 39.7 | -8.4 | | ↑ 55.3 | 6.8 |
| | | 11.5 | -1.0 | | 5.3 | -9.6 |
| 【分析・対策】 | | | | | | |

家庭学習に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|------|-----|--------|------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 85 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通） | | ↓ 89.7 | -0.9 | | ↓ 89.4 | 3.9 |
| | | 41.0 | 0.4 | | 28.9 | -5.1 |
| 86 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通） | | 100.0 | 4.5 | | ↑ 97.3 | 5.4 |
| | | 42.3 | -4.0 | | 28.9 | -8.1 |
| ※87 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか（教科共通） | | 96.2 | 6.8 | | 94.7 | 9.3 |
| | | 35.9 | 6.8 | | 18.4 | -5.9 |
| 【分析・対策】 | | | | | | |

全国学力・学習状況調査の結果等の活用に関すること

| 質問事項 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|--|-----|--------|------|-----|-------|-------|
| | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 | 本校 | 鹿児島市 | 全国比 |
| 89 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか | | ↓ 97.5 | 5.4 | | 100.0 | 12.3 |
| | | 30.8 | 5.3 | | 5.3 | -15.0 |
| 91 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか | | 98.7 | 10.0 | | 100.0 | 14.2 |
| | | 41.0 | 10.0 | | 26.3 | 1.4 |
| 【分析・対策】 | | | | | | |